

インセンティブシンポ

中小の取り組み紹介

国交省

【鹿野島智子】国交省となった中小トラック事業者と全日本トラック協業者の収益向上の取り組みを紹介するとともに、(中西英一郎会長)は、十二日、「中小トラック運送事業者の収益向上のためのインセンティブ施策助成事業に関するシンポジウム」で写真を開いて説明した。

国交省自動車交通局貨物課の奈良平博史課長が講演、「経営改革を行う事業者を国交省が助成制

度などで積極的に支援することを強調した。さらに、「荷主と対等に交渉できるように安全対策など充実させ、企業体質を改善してほしい。業界全体の地位向上を目指し、さらなる努力を」と要請。



「ター」に迎え、前田博正氏(アスカ社長)、牧野篤人氏(三ヶ根運輸専務)、中田純一氏(中田商事社長)、三浦征善氏(秋田秋印運輸専務)、浅井俊一氏(日通総研経済研究部物流・交通政策グループ研究主査)、矢島昭男全ト協常務をパネリストに、助成対象となる事業の内容、さらに業界全体の地位向上のため何が必要かを話し合っ

た。浅井氏は、助成対象となり改革に成功する企業の特徴として①オリジナリティある発想の好奇心を持って新しい事業に挑む——ことを挙げた。また、「秋田秋印運輸の繁忙ギャップ組み合わせによる相互出向のような協業化は、大手では難しい。中小事業者にとって新しいビジネスモデルになるのではないか」と指

摘した。牧野氏は「業界、地域、荷主の動向を詳細に観察し、経営戦略を練った。荷主ニーズをきめ細かく読み取り物流センターを運営し、Web在庫管理など情報システムを構築。大手に負けないサービスを提供し、必要とされる企業を目指している」と経営方針を語った。

また、前田氏は積極的に異業種交流会に参加。助成対象となった「荷崩れ防止防水シート」は、サンプル製作、特許申請など交流会の協力で開発が可能になったという。

中田氏はニッチ市場に注目。情報技術(IT)や各助成制度を活用している。成功の秘けつとして「経営者の『思い』が重要。夢を大きく持ち、努力する人が成功する」と語った。